

# コハズク展 4月29日～6月11日(平成12年)



コハズク  
〔木葉木菟〕  
*Otus scops*  
フクロウ科

人の手のひらに入るほどの小型のフクロウです。頭には短い羽角があり、体色は灰褐色をした褐色型と赤茶色の赤色型の2型があります。日中は樹幹によりそっていたり、横枝に静止しているので見つけることは困難です。夜行性で、飛翔時にはまったく羽音をたてません。

目(虹彩)は黄色。翼の下面は灰白色で風切には黒色の横斑があります。足指には羽毛はありません。日本には夏鳥として飛来し、九州から北海道まで広く分布しています。ふつう山地で樹洞を使って繁殖し、昆虫を主食としています。日没から明け方にかけて「フン キョウ コー」と澄んだ高い声で鳴きます。また「キョウコー」の2声だけのこともよくあります。

愛知県警シンボルマスコット



全国に数ある県警マスコットの中で階級を与えられているのは県鳥の名を冠したコハザク部のみ。  
スゴイ!  
(平成3年7月8日制定)

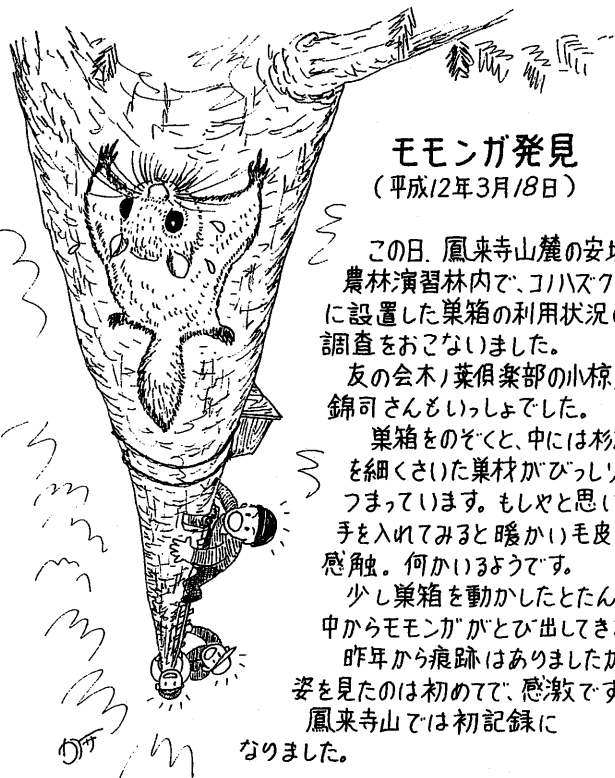
コハズクは昭和40年5月10日に県の鳥に指定されました。

**コハズク展**

鳳来寺山の仏法僧・コハズクの歴史  
耳に残る仏法僧の囁き  
忘れられない仏法僧の思い出  
仏法僧の棲む山々  
鳳来寺山のコハズク  
泉河の科ハズク生息地  
コハズクの特殊な生態  
鳳来寺山の科ハズク生息地  
コハズクの生態  
コハズク生息地の調査  
愛知県内のコハズク(分布図)  
仏法僧シンポジウム  
仏法僧シンポジウムの脅威  
コハズクの脅威  
コハズクの緊急保護  
コハズクの飼育体験  
野鳥を守る  
飛びたつていった野鳥たち  
コハズクを呼びよせたい

調査記録  
日記記録類  
文献類  
加藤淳氏(初代鳳来町長:故人)が綴った鳳来寺山に関する仏法僧参考資料  
コハズク関係新聞スクラップ  
仏法僧関係資料閲覧用コピー  
小学国語読本  
昭和10年代のラジオとマイク  
ラジオ実況放送当時の写真や記録  
JOCKニュースなどの資料  
海老公民館で使われていた昭和初期のラジオ  
(山びこの丘民俗伝承館 蔵)  
大理石が使われているマイク  
初公開中  
コハズクビデオコーナー  
鳴く様子やかわいいうさぎさをビデオカメラで撮影して、放映しています  
コハズクを紹介した愛知県の資料  
オオコハズクとアオハズクの創製  
コハズクの創製(褐色型と赤色型)  
常滑焼コハザク部  
コハザク部の置物  
展示期間中も任務があるときには出勤してきます。  
コハズクグッズ  
鳳来寺山麓のコハズクのおみやげ  
全国・世界各地のコハズク・ミズク類グッズ

# 新緑のなかで はつひな祭り No.62 2000.5



## モモンガ発見 (平成12年3月8日)

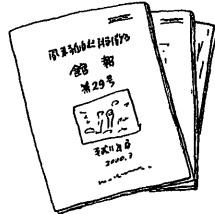
この日、鳳来寺山麓の安城農林演習林内で、コハウス用に設置した巣箱の利用状況の調査をおこないました。

友の会木ノ葉倶楽部の小椋克好、錦司さんといっしょでした。

巣箱をのぞくと、中には杉皮を細くさいた巣材がびっしりとつまっています。もしやと思い手を入れてみると暖かい毛皮の感触。何かいるようです。少し巣箱を動かしたとたん中からモモンガがとび出してきました。

昨年からの痕跡はありましたが姿を見たのは初めてで、感激です。鳳来寺山では初記録になりました。

なりました。



## 館報29号発行 (平成12年3月31日)

## スッポンゆくえ知れず (平成12年5月5日)

平成11年11月5日に脱走したスッポンの大捜索をしました。

逃げてからちょうど半年が経過しています。

姿を消した池のすみずみまでさがしましたがみつきりませんでした。たぶん池からはい出て、館の前を流れる音為川に逃げ込んだのだでしょう。

## 友の会報「るり山」No.5発行 (平成12年4月20日)

友の会25周年目にあたる会報です。B5版82ページの大冊になりました。毎年の中身が充実してきて楽しみです。



## フクロウ去る (平成12年4月1日)



宇連川で釣り糸にからまり弱っていたフクロウ(フクロウ)がコハウス内で元気をとりもとしたので、出入口の扉を開けておきました。

この日の朝、コハウスをのぞくとすでに飛び去った後でした。再びきびしい自然界での生活です。たくましく生きぬいてほしいものです。

(No.60参照)



## 学術委員総会・友の会総会 (平成12年4月23日)

学術委員総会では平成11年度の事業報告、平成12年度事業の推進等について協議されました。ついでにおこなわれた友の会総会では、地学部門主任の仲井豊先生(愛教大学長)から「南極観測と地球環境問題」について講演していただきました。そして、今回の会員表彰は、伴公太・典子・茂高、加藤あゆみ・美智代、佐竹照代、星野京子のみなさんでした。懇親会では恒例の五平もちをみんなでにぎっておいしくいただきました。

## ジムグリのおなか (平成12年4月12日)

館のお隣りさんの庄田さんが変わったヘビがいると教えてくれました。おなかのようがおもしろいですね。



## ツバメのツンちゃん (平成12年4月29日)

鳳来町役場で落鳥したツバメがひろわれました。翼を傷めているのか全く飛べません。

そこで博物館で受け入れ保護することになりました。ツンちゃんも名付け、5月7日汚れた鳥カゴをそうじしようとしたところ、出入口からサッと逃げだし、上手にはばたいて飛んで行きました。めでたし、めでたし。

## つつじの花を楽しむ (平成12年4月29日、晴、72名)

今年は乳岩でおこないました。三河川合駅を出発し、乳岩川沿いの植物を観察して行きました。ヒカゲツツジやモチツツジを楽しみながら乳岩峡を探索できました。乳岩周辺には、ウラジロキボウシ、ミカワショウマ、ヒロウドリウツギ、アロハナキハギ、トキワカキなど珍しい植物が多く見出されていることで有名です。



## ハナノキの花 (平成12年4月5日)

今年は約2週間遅れての開花でした。紅葉もきれいですが、木が燃えているようにみえるまっ赤な花もみごとです。



愛知県の木  
ハナノキ

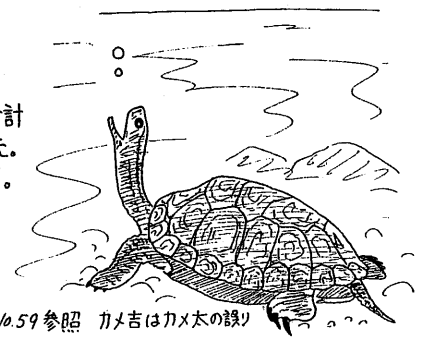
## おはようカメ大 (平成12年5月5日)

昨年の10月末から冬眠していたイシガメのカメ大がようやく目ざめました。ソーセージをワフリと食べたり、首を長く伸ばして水面から顔を出したりしています。

お腹の甲らのキズもいつのまにか消えていました。

## モリアオガエル初産卵 (平成12年5月18日)

15日の雨で産んだようです。鳳来寺山中腹の池を調べると、合計11個の卵塊が確認できました。池の縁に3個、樹上に8個。失敗して地上に産みつけられた卵塊は、博物館の水槽に移して、現在飼育中です。



No.59参照 カメ吉はカメ大の誤り

# ひと夏の話題

## 冬虫夏草・オオセミタケ (平成12年5月24日)

5月22日から25日まで、愛教大附属中学2年生のみなさんが、大島地内で合宿をしました。これには地元の方や博物館も自然観察のおてつだいをしました。

3日目、鳳来寺山でギンリョウソウを調べるグループに同行した際、ふしきなきのこに出会うことができました。冬虫夏草です。

地上に現れた4cmほどのきのこを掘りすすむと、地下からセミの幼虫がでてきました。

オオセミタケです。

冬虫夏草には、他にもクモ、カメムシ、アリ、オサムシなどから発生するものなど300種以上が知られています。

## 鳳来寺山を中心とした 東三河の地質と動植物



## 夏の特別展準備 (平成12年7月15~19日)

当館学術委員が中心になっておこなう企画展です。

それぞれの先生が各分野を分担します。資料や標本類を持ち寄り、パネルを作成していきます。

今回は、開催日前日の夜まで作業が続きました。

## モリアオガエルと 鳳来寺山の生きものを学ぶ (平成12年5月27日、雨 55名参加)

朝からあいにくの雨でしたが、モリアオガエルにとっては、快適な天候だったことでしょう。傘やカッパを着ての野外観察になりましたが、またとない幸運が待っていました。石段登り口付近の杉の洞からムササビが顔を

出して、あいさつ。モリアオガエルの産卵池では親ガエルが「私たちが待っている」かのように姿を現わしました。

やはり野外観察はいいですね。

## 赤道直下のコノハズク (平成12年6月19日、来館)

南知多の内海に住む内田清伊知さんから貴重な話をうかがうことができました。

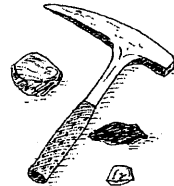
内田さんは太平洋戦争中、赤道直下のハルマヘラ島に従軍しました。その折兵舎の裏山で「ブッポーソ」と鳴く声を毎晩のように聞いたそうです。(昭和19年頃)。その後連合軍の爆撃が猛烈を極め、島中が轟音につつまれ、鳴き声は聞かれなくなってしまいました。

コノハズクは、ヒマラヤ、中国、東南アジアに分布していますが、この生息情報は貴重な

証言です。当時は住む人もとて少なく、原始の森が広がっていたそうですが、現在の島にもコノハズクはいるのでしょうか。いちど行ってみたいのです。

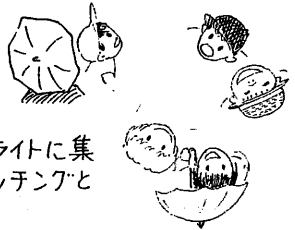
## 鳳来町及び三ヶ日町の地質を学ぶ (平成12年7月23日、晴、55名参加)

今回は中央構造線から東側(外帯)の地質を学びました。山吉田の結晶片岩、黄柳野の蛇紋岩、大福寺の異剣石、只木の石灰岩、瀬戸のチャートなどです。



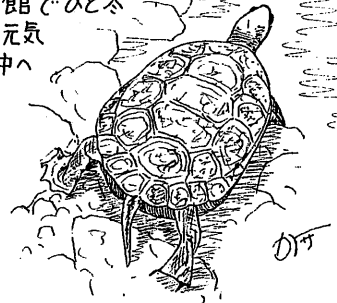
## 森や谷川の生きものを学ぶ (平成12年8月5-6日、曇り、25名参加)

一泊二日の合宿です。1日目は水生生物と、ライトに集まる昆虫の観察。翌日は早朝のバードウォッチングとトラップ(わな)で採れた昆虫の同定や標本の作り方、質問会でした。友の会の小椋会長から、フワガタのアプレゼントもあり充実した2日間でした。



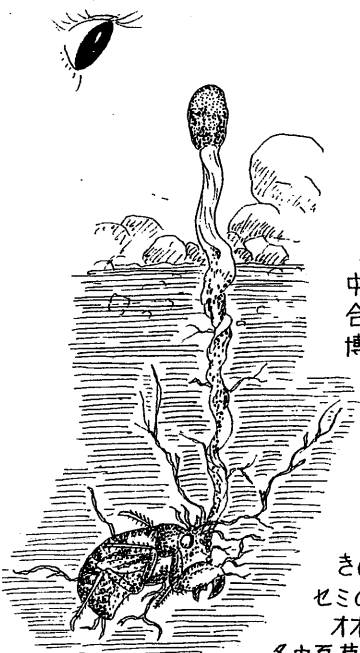
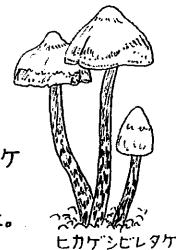
## さよならカメ太 (平成12年6月8日)

昨年の7月20日にやってきたカメ太。博物館でひと冬すごし、元気に自然の中へ帰っていきました。



## 梅雨期のきのこ観察会 (平成12年6月25日、曇り、45名参加)

3年目になる友の会主催の観察会です。入梅から始まるきのこシーズン。今年は75種が観察できました。医王寺境内での同定会場には、コテンダケモドキやツルダケ、タマシニガフリダケ、幻覚性きのこのヒカゲシビレダケなどの毒きのこも並びました。



## 鳳来町のコノハズク

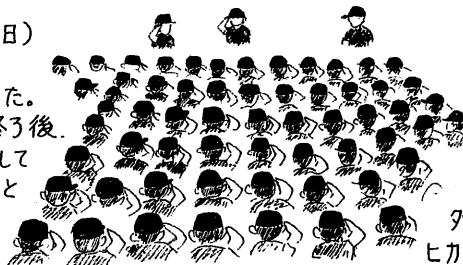
今年の町内の初鳴きは4月30日(四谷)でした。その他の地域も例年どおり飛来しているようです。

鳳来寺山では昨年に続き鳴きました(5月22日、門谷地内)。ふもとの人たちが聞いたのは一日だけでした。

新しい情報としては、川売や黒沢方面でも鳴き声を聞いた人がいます。

## 愛知県警察学校の見学 (平成12年7月26日)

247名のおまわりさんの卵の方たちの見学がありました。規律正しい入場風景は気持ちのよいものです。見学終了後、県警マスコットの「コノハけいふ」のぬいぐるみを贈呈してくださいました。館のコノハズクコレクションがまたひとつ加わりました。



# きのこ博物館

きのこ展 (平成12年10月1日~10月30日)

はぴなだより No.64  
2000.10

## コウタケ乱舞 (平成12年10月3日)

この日、館長がとて興奮した顔で野外からもどって来ました。見ると着ている服も泥ががついて、ところどころもふれています。上着もなぜか着ていません。

原因はすぐ判明しました。山でコウタケの大群落にでくわしたのです。私たちに見せようと、リュックに入りきれないコウタケも上着につみ、大いそぎで山を駆け下ってきたからでした。



博物館の秋の定番となった「きのこ展」も今年で12年目です。毎年同じテーマで特別展をするということは、担当者の怠慢で能がない、と言われるそうです。反面おなじみになることで、「秋=きのこ=鳳来寺山自然科学博物館=きのこ展」という「あい」に地域の人たちに定着もしてきているようです。

当館のきのこ展は、当初3日間から始めました。近年では1ヶ月以上の長期開催になりました。実物の野生きのこを生のまま展示することを旨としていますので、標本の確保は大変です。最近では、協力してくださる人や、採集品の一部を提供してくれる人も多くなり、おお助かりです。

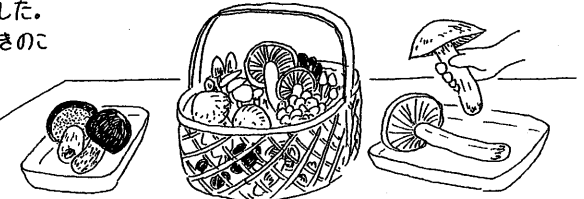
## きのこを学ぶ会 (平成12年10月9日)

雨の降る中、63名の参加者が集いました。ほとんど欠席なし、みなさんとて熱心です。野外観察と採集に出発するころには雨もあがり、念願のきのこ観察ができました。

午後は採集したきのこの同定会です。きのこ展会場にテーブルを置き、採集してきた野生きのこをひろげました。今回は109種の名前がわかりました。



## きのこ展支援者



## 全校できのこ観察 (平成12年10月16日)

自然豊かな鳳来町は、都会の人に自まんだい環境の中にある学校ばかりです。黄柳野小学校は、すぐとなり幅広い雑木林になっています。そこでは、四季をとおして自然学習がおこなわれています。

秋たけなわのこの日、全校児童と先生によるきのこ観察会が計画されました。この付近一帯は、きのこの豊庫として注目していたところで、博物館職員もいっしょに調べました。短時間ででしたが59種のきのこが確認できました。



ムシオコウセンタケ

黄柳野小学校の生徒さんが見つけた。大型で収量の多い、みごとなきのこで食用にもなります。

## 今年印象に残ったきのこたち

今年は例年になくきのこの発生量が多い年でした。ふたんあまり見られないきのこや、数の少ないきのこがたくさん展示できました。展示期間中、1266人の見学者と、307種のきのこが並びました。



マツタケ

今年は例年よりたくさん出たようで、おおぜいの人々が窓口でそと見せてくれました。でも、置いていってくれる人は誰もいません。



カゴタケ

館長が静岡との県境で発見。9年ぶりの出会いとなりました。



バカマツタケ

雑木林に生える小型のマツタケで、香りは本物以上です。しかしバカ…はかわいそう。



サクラシメジ

ワインレッドのきのこです。てんぷらでいただくのとておいしいです。



ウラボシホテイシメジ

大型でボリュームがあり、ほろにがい。

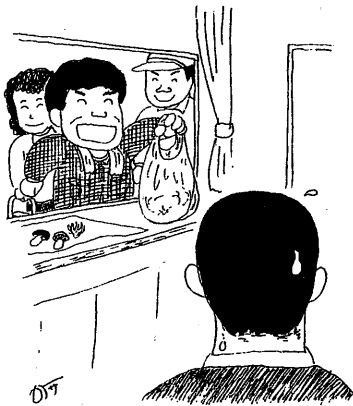
## きのこ相談

今年はきのこの発生量が多かったせいかきのこに関する問い合わせ、質問がとて多くありました。自分の採ったきのこが食べられるのか、はたまた毒か。

きのこ狩りを楽しむ人にとって、いちばんの関心事です。今シーズン中、161件の相談がありました。(昨年は73件でした。)

食毒を簡単に判別する、よい方法は特にありません。ひとつひとつ確実に覚えることです。そして、不明なものをむやみに食べないことです。

999 鳳来寺山自然科学博物館



# 夏から秋の博物館

大島ダムとその周辺の自然を探る  
(平成12年8月27日、晴、50名参加)



この学習会は、地学、植物、動物の各部門が合同しておこなわれました。試験たん水が始まる直前の大島ダムでは、ダム本体を支えている溶結凝灰岩のできかたを学んだり、黄鉄鉱の採集もできました。設楽火山の想像を超えた、大規模な活動に思いをめぐらせました。

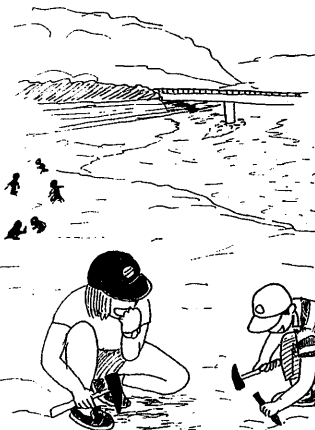
次の七郷一色では小学校の石垣で保護されているワロツバメシジミとその食草のツメレンゲを観察。この一帯は、平成11年に

生息地として町の天然記念物に指定された場所です。最後は阿寺の七滝。中央構造線のはたらきでできたこの滝まで、植物観察をして歩きました。岩壁ではイワタバコの群落がちょうど花さかりみごとでした。途中益毒菌として有名になったカエンタケも観察できました。



瑞浪市化石博物館の見学と化石採集  
(平成12年9月17日、(曇りのち晴、62名参加)

瑞浪市には今から1900万年～1500万年前の湖や浅い海だったころの地層がひろく分布しています。ここからは貝を中心とした、さまざまな化石がたくさんみつかっています。化石博物館では、展示の化石で勉強。野外の「Q山」で地層の観察をしました。しめくくりは、松ヶ瀬の河原で化石採集でした。ここの化石は、鳳来町で見つかるものとほぼ同じ年代に生きていたものです。



— 鳳来寺山自然科学博物館 —



命びるい コリハズク  
(平成12年10月25日)

10月14日午後9時頃、豊田市青木町の路上で、飛べずにうずくまっていたコリハズクが保護されました。木がぬらっていて、間一髪でした。助けたのは、近くに住む新聞阿由子さん、智恵子さんです。左翼が折れて、全く飛べません。動物病院で診てもらった後、10日間飼養しましたが、将来を考えて博物館に来るようになりました。



秋の紅葉を楽しむ  
(平成12年11月12日、(曇り、45名参加)

乳岩の秋の植物観察会です。三河川合駅に集合し、5班に分けて出発。ウルシのなまみや、オカメノキはすでに赤く紅葉していました。タカノツメ、アマカシワ、ヤマノイモは黄葉。先発グループは、石門、乳岩を一周。後発グループは乳岩川沿いに植物をじっくり観察できました。みなさん各々に秋の自然を楽しみました。

博物館友の会設立25周年 (平成12年11月3日)

昭和51年に友の会は誕生しました。今年で25年になりました。ちょうど1/4世紀です。これを記念して、お祝いの式典を開催したところ、89名(会員71名、来賓18名)の方が出席してくださいました。なごやかで楽しい祝賀会になりました。



小椋会長

松井元館長

小林教育長

高木先生

第一部の記念式典では、小椋会長のあいさつに続き、友の会を立ちあげた松井保さん(元館長)から、博物館勤務の苦労話と設立当時の秘話を語っていただきました。次に教育委員会の小林和光新教育長さんから、お祝いのことばがありました。そして最後に学術委員を代表して高木典雄先生です。友の会設立のいきさつ、学習会と友の会、ご自身の体験などを通して話をしてくださいました。



竹之内夫妻

第二部の懇親会では、竹之内さんの手打ちうどんの実演、墨岡、岡本、福島さんが肉のくせい作り、全て天然ものものきの鍋、名物五平もちを食べつつ、大いに友好を深めました。さらに出席者全員でビンゴ大会。(大平先生から景品をプレゼントしていただきました)

三浦半島活断層調査会  
(平成12年11月4日)

神奈川県活断層を研究するグループが博物館の見学に来ました。地元の三浦半島をはじめ、全国の活断層を調査研究するとても熱心な団体です。今回は、中央構造線の北条峠から新城市有海までの巡検。1泊2日の研修。鳳来町は、大島、阿寺七滝、百間滝、八景峠、長篠と、精力的に観ていかれました。

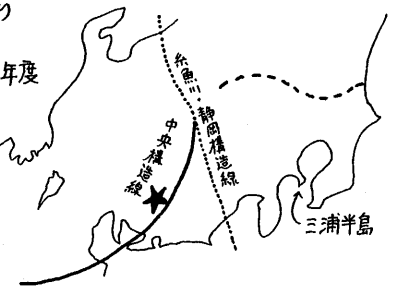


25周年記念  
オリジナルバッヂ

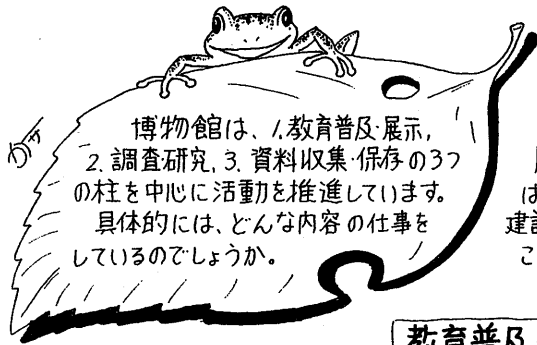


はらわだもの No.65  
2000.11

終わりに、館長からあいさつと、10年以上にわたり入会してみえる17人の会員の方に感謝状と平成13年度用ゴールド会員証の贈呈がありました。5年後の30周年をみざして、さらなる発展を全員でうかいました。

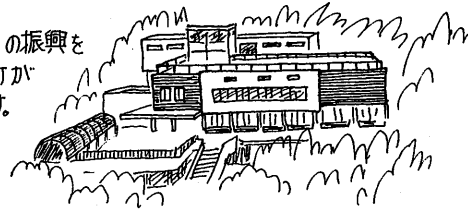


# はくぶつかんのお仕事 鳳来寺山自然科学博物館



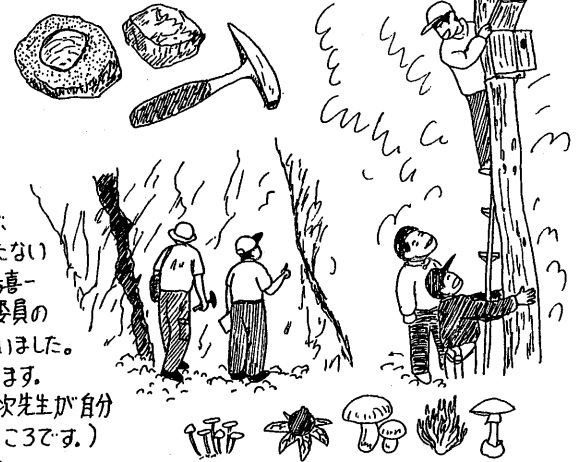
博物館は、1.教育普及・展示、  
2.調査研究、3.資料収集・保存の3つ  
の柱を中心に活動を推進しています。  
具体的には、どんな内容の仕事をして  
いるのでしょうか。

鳳来寺山自然科学博物館は、昭和38年(1963)に教育の振興を  
はかることを目的として、地元の丸山喜兵衛氏の浄財を基に町が  
建設しました。以来37年間、活発に事業をおこなっています。  
ここでは主に平成12年度の仕事について紹介します。



## 調査・研究活動

鳳来町とその周辺地域の地質、菌類(きのこ)、  
コリハスグの生息状況などについて取り組んでいます。



## 教育普及・展示活動

### 野外学習会の開催(年9回)

- ① つつじの花を楽しむ -4月29日-(72名)
- ② モリアオカ「エルと鳳来寺山の生きものを学ぶ」  
-5月27日-(55名)
- ③ 鳳来町及び三ヶ日町の地質を学ぶ  
-7月23日-(55名)
- ④ 森や谷川の生きものを学ぶ -8月5~6日-(25名)
- ⑤ 大島ダムとその周辺の自然をさぐる  
-8月27日-(51名)
- ⑥ 瑞浪市化石博物館の見学と化石採集  
-9月17日-(62名)
- ⑦ きのこと学ぶ -10月9日-(63名)
- ⑧ 秋の紅葉を楽しむ -11月12日-(45名)
- ⑨ 野鳥の観察と巣箱づくり -12月9日-(49名)

## 資料収集・保存活動

調査や寄贈などで集まった  
資料を整理して保存します。  
とても時間と労力がかかる作業で、  
なかなか進みません。地道で目立たない  
ことですが、大切な仕事です。(鳥居喜一  
先生寄贈の植物標本4万点は、学術委員の  
牧野彦二先生が11年かけて整理して下さいました。  
現在は、山田由乃先生が引きついでいます。  
また、鳥居標本に1種について、加藤等次先生が自分  
の標本を整理追加してくれているところ。)  
収蔵標本、図書類など、ぼう大な  
資料整理はまだこれからです。

### 特別展の開催(年3回)

- ㊦「コリハスグ展」-4月29日~6月11日-(1,373名見学)
- ㊧「鳳来寺山を中心とした 奥三河の地質と動植物展」  
-7月20日~8月31日-(3,320名見学)
- ㊨「きのこ展」-10月1日~10月30日-(1,203名見学)



展示は、すべて学術委員の先生方と、博物館職員の手  
づくりです。作業は夜おそくまでかかることがしばしばです。  
夏の特別展は、学術委員が中心になって、企画  
から展示作業までおこないます。冷房設備がない  
ので、毎年汗をふきふきがんばっています。

## 館報の発行(年1回)

博物館の報告書です。B5サイ  
ズで、今年は100ページほどになります。  
内容は、学術委員と博物館員による  
研究報告や、事業報告などを掲載して  
います。平成12年度で30号になりました。  
今号には、東栄町のコマツキムシ、

阿寺の七滝の植物、ユリの奇形花、湖山のオパール  
の成因、鳳来町の菌類、鳳来町の天然記念物の紹介、  
友の会25年間の歩み、などが執筆されています。

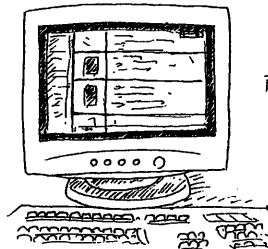
館報は、全国の博物館等の報告書と交換したり、  
学校や図書館、研究機関などにもとけて役立て  
てもらいます。町民のみならず一般利用者にもおわけできます。



## 博物館ホームページ開設

博物館では  
平成11年1月/日から  
ホームページをオープン  
して情報発信をおこ  
なっています。

館の刊行物や  
販売図書コーナー  
が人気です。



## 講演・セミナーの講師

学校や各種団体、グループなど  
から要請があると、現地へ出かけて  
いたり、博物館内で講演や簡単  
な講話、観察会の講師などもまき  
かけています。今年度は館長が36回、学芸員  
が19回担当しました。



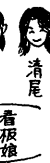
横山(館長)



加藤(学芸員)



森下(学芸員)



清尾(学芸員)

## 管理と運営

教育委員会の博物館係  
が担当します。現在4人の

職員が勤務しています。毎朝のそうじから始まり、  
さまざまな仕事を協力しておこないますが、主に  
館長と学芸員は管理運営、学芸的なこと。森下は事務と  
ホームページ。清尾は友の会を受けもっています。

また、館の円滑な運営をはかるために、博物館  
運営審議会があります。そして学術面では、博物館学術委員の  
先生方に指導していただいています。

館内には「めや巣箱」を  
設置して、見学者の声を  
聞くように心がけてい  
ます。

県下では、愛知県博  
物館協会(加盟123館)  
の理事館として、理事  
と実行委員をつとめて  
います。

## 友の会

博物館友の会は、発足  
して25周年を迎えました。  
今では300人以上のメンバ  
ーがいます。総会の開催、  
会報誌の発行、友の会独  
自事業の開催、博物館  
活動への協力、学習会の積極的  
な参加など、とても活発で、和気ありあいの、楽しい会に育っています。



記念式典資料

# 友の会の四半世紀

## 鳳来寺山自然科学博物館友の会 25年の歩み

- 昭和38年(会員数)
- 51年(75名)
- 52年(21名)
- 53年(48名)
- 54年(115名)
- 55年(101名)
- 56年(104名)
- 57年(141名)
- 58年(126名)
- 59年(113名)
- 60年(116名)
- 61年(101名)
- 62年(85名)
- 63年(165名)

- 平成1年(187名)
- 2年(235名)

- 3年(300名)
- 4年(227名)
- 5年(238名)
- 6年(384名)
- 7年(238名)
- 8年(308名)

- 9年(382名)
- 10年(334名)

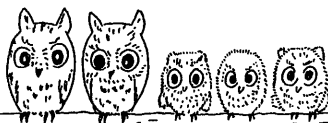
- 11年(375名)
- 12年(366名)

博物館が開館(4月26日)  
友の会設立、年会費600円。



学習会参加証付き会員証の発行開始。  
友の会員の精励表彰開始。  
会費変更(おとな1,000円、子ども600円/年)

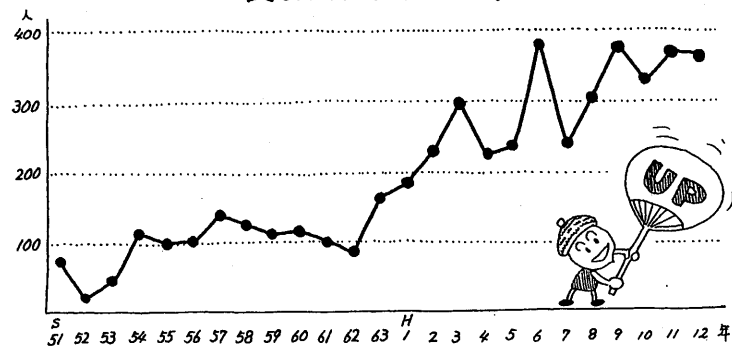
家族会員制導入(3,000円/年)  
第1回友の会総会の開催(6月24日)、役員選出。  
第2回友の会総会(5月12日)。  
友の会の会報「瑠璃山」(3りさん)第1号創刊。  
第3回友の会総会(5月11日)、瑠璃山No.2発行。  
第4回友の会総会(4月25日)、瑠璃山No.3発行。  
初の友の会主催行事「梅雨期のきのご観察会」の開催(6月27日)。  
第5回友の会総会(5月8日)、瑠璃山No.4発行。  
梅雨期のきのご観察会(6月20日)  
おみじ祭りイベント「博物館36周年感謝祭」の開催(11月23日)。  
コハズク調査(春～夏)、きのご展協力(秋)  
第6回友の会総会(4月23日)、瑠璃山No.5発行。  
梅雨期のきのご観察会(6月25日)  
コハズク調査(春～夏)、きのご展協力(秋)  
博物館友の会25周年記念式典の開催(11月3日)。  
おみじ祭りイベント「博物館37周年感謝祭」の開催(11月23日)



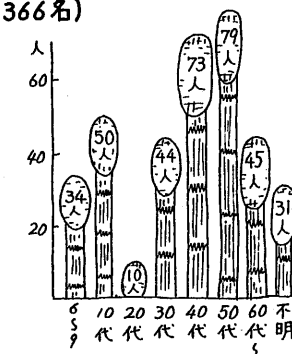
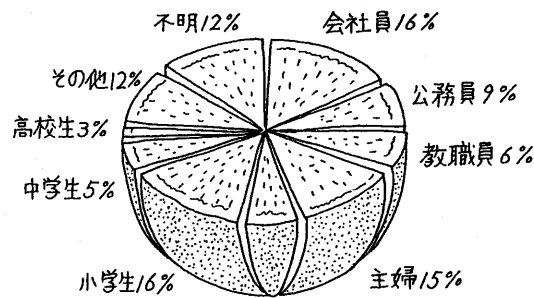
博物館友の会は、「郷土の自然を楽しく学び、自然科学の普及発展に寄与するとともに、会員相互の親睦をはかる」ことを目的に、昭和51年に創られました。75名の会員から出発した友の会も、近ごろは300人以上の会員がいます。鳳来町内だけでなく、愛知県内の各地や、県外からも入会する方もいます。設立時から数えますと、今までにのべて4,885名の方々が会員になっていただいています。



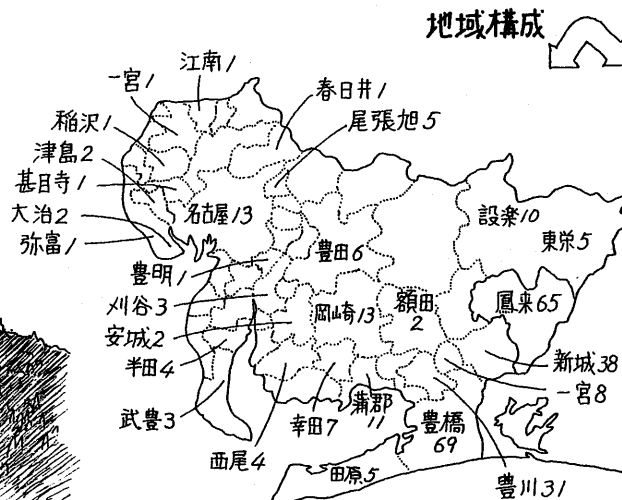
## 友の会員数の推移



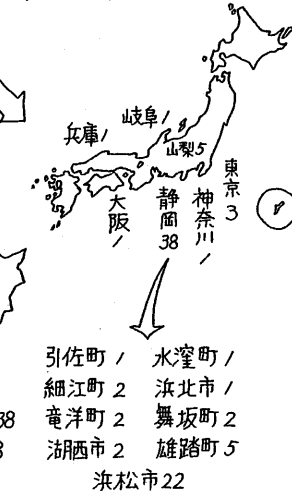
## 平成12年度友の会のようす (366名)



## 地域構成



## 地域構成



のり



# 新緑の博物館

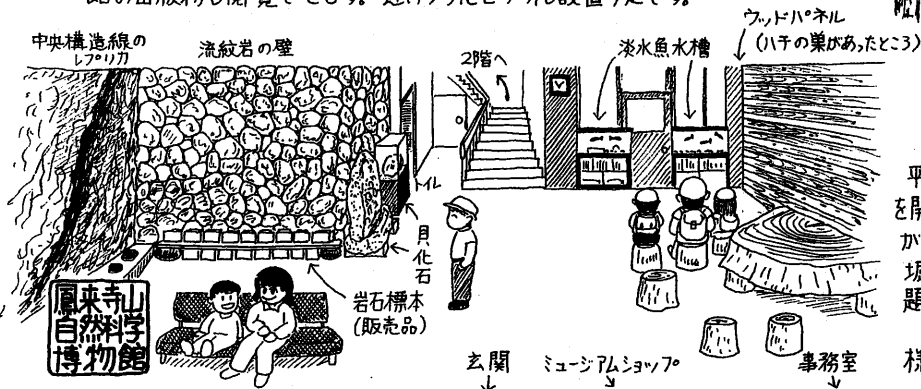
ツツジの花を楽しむ (平成13年4月22日 晴れ 53名参加)



今年は県民の森でおこないました。川沿いの遊歩道コースとシクワナゲ尾根コースの2フループに分かれて出発しました。シクワナゲ尾根では、ちょうどホリバシクワナゲが咲き始め、絶好の観察がよくなりました。淡い黄色で円筒形の小さな花をつけるウスギヨウラクもツツジ科の植物です。木も小さく、他のツツジのように目立ちませんが、とてもかわいらしい花です。

## ロビー 一新 (平成13年3月~4月)

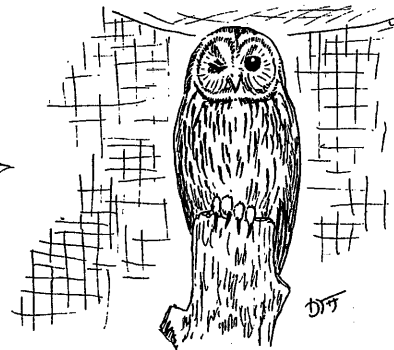
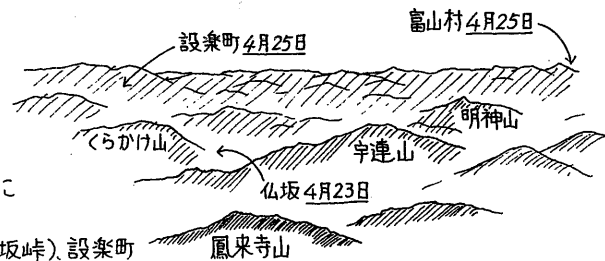
今まで親しまれてきた「ハチの巣展示コーナー」を2階の分類展示室内に移設しました。ハチの展示ケースを取り除いたところ、38年前の古い古い壁が出現しました。そこで杉板で被って修理し、杉の太木で作ったテーブルと切り株のイスを配して、イメージの一新をはかりました。玄関を入るとロビーが広々としました。左の石のコーナーとは対照的に、木材の温かな雰囲気のスペースができました。事務室とも隣接し、気軽にお話をしたり、館の出版物も閲覧できます。近いうちにビデオも設置予定です。



## コハズク飛来

新緑の季節は、コハズクがやってくる時期でもあります。繁殖場所を求めて奥三河の各地に飛来してきます。

今年4月に入って、鳳来町四谷(仏坂峠)、設楽町八橋、富山村市原から初鳴の情報がとどいています。平成11年から鳴き声がとどいた鳳来寺山では、11つ聞くことができるでしょう。毎日注意深く耳をすましています。ちなみに平成11年は5月13日、12年は5月22日が鳳来寺山の初鳴日でした。

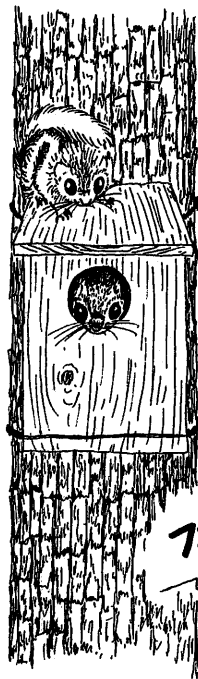


## フクちゃんのおひっこし (平成13年4月26日)

平成13年2月20日、大島ダム建設地の事務所付近で保護され、持ち込まれたフクロウです。当時、口から血を流し、目とじたままで、立ちあがれないほどの状態でした。数日して、ようやくエサを食べるようになり、徐々に元気になってきましたが、右眼は失明してしまいました。4月になり、だいぶ元気が出てきたようなので、思いきってコハズク内に放鳥しました。片眼では野生復帰はむづかしいそうです。コハズクで生涯くらすことになるかもしれません。

## コハズク用巣箱調査 (平成13年 春)

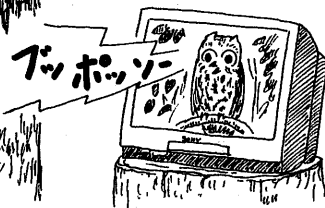
コハズクの繁殖を願って鳳来寺山一帯に掛けた巣箱の利用状況の調査をおこないました。  
・1月28日、門谷21世紀委員会  
・3月17~18日、友の会木業倶楽部  
・4月1日、門谷21世紀委員会  
合計76個の調査を済ませましたが、コハズクが使った形跡はありませんでした。



## モモンガ! モモンガ! (平成13年3月17日)

昨年につづき(たよりNo.62参照)、今年もモモンガに出会えました。しかもペアで! 昨年とは谷をへだてた別の場所の巣箱です。この調査には友の会員の中山雅史さんも協力してくれました。今回は証拠の写真もバッチリ撮って、コハズク展で紹介しています。ムササビの半分以下の大きさしかなく、目がフワフワ大きくて、コハズクの巣箱を占領していても許してしまいたいくらい、かわいいう侵入者です。

## コハズク展 (平成13年4月21日~6月10日)



昨年にみきつアートの特別展です。目玉は何といてもコハズク号の鳴き姿でしょう。羽づくろいをしたり、ウンチをしたりする様子も収録されています。鳴きかた「ブッポッソ」の2声や「ブッポッソ」の3声だったり、生態がよくわかります。

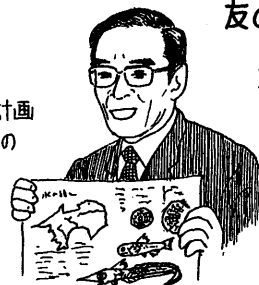


## 学術委員総会と友の会総会の開催 (平成13年4月15日 晴)

平成13年度の博物館学術委員総会と友の会総会を開催しました。12年度事業報告と新年度事業計画が議題でした。友の会の総会では、学術委員の堀正和先生(魚類)が「水の流れを」と題して、記念の講演をしてくださいました。幼い頃をすごした四国の川と魚について、様々な体験をお話うかがうことができました。

## 友の会報「瑠璃山」No.6発行

友の会総会にあわせて発行しました。B5版90頁です。今号は、25周年記念特集として、式典資料や来賓の方々へのスピーチも収録してあります。



はぴなだより No.68 2001.5



# 梅雨と博物館

モリアオガエルと鳳来寺山の生きものを調べよう  
(平成13年5月26日 70名 晴)

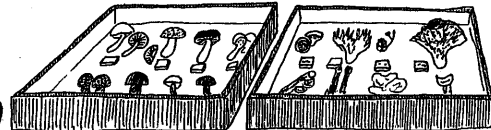


今年の鳳来寺山でのモリアオガエルの最初の産卵は5月8日でした。

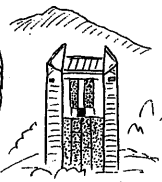
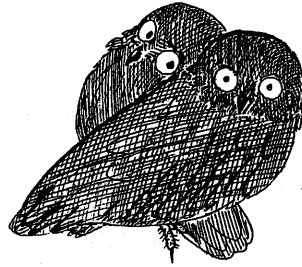
この26日は、卵塊が16個に増えていました。山の中腹の産卵池までの道中は、鳥類、魚類、昆虫類、貝類の観察をしながらの登山です。

野鳥では、オオルリやコゲラなど12種が確認できました。

昆虫では、熱帯系で美しいアカスジキンカメシも見れました。午後の観察のまとめの時間で、小椋友の会長が「ヤマカガシのふしぎ」について、捕獲しておいた本物のヘビを回し見してしながら話をしてくれました。



翌日には元気に飛び去りました。



## アオバズク 網にかかる (平成13年6月3日)

山びこの丘にある「アッポ-ウォール」のハトよけネットに2羽のアオバズクがからまっているのが見つかりました。もかいてあばれたために網が体中にくっつき、身動きできない状態です。ロッククライミングの訓練に来ていた方たちが網ごと切って助けてくれました。博物館にとどけられたので、羽や首、足に複雑にからまった網の糸を取り除き、消耗しきって動けなくなった2羽の回復を待ちました。

## 「いこまい!! 愛知のミュージアム展」出品準備中

(名古屋市博物館にて7月4日~9月2日まで開催)

名古屋博覧会開催130年、博物館法制定から50年、21世紀のはじまり、という節目に愛知の博物館が大集合することになりました。県下の7館が参加します。当館も参加に向けて準備中です。

今まで金庫の奥深く秘されていたハイロフスマンカン石の大結晶、アンチモニーなど奥三河の誇る鉱物、岩石、化石を17点、コハズク7の複製標本、冬虫夏草とまきの凍結乾燥標本37種を出品します。夏休みには、鳳来寺山自然科学博物館と名古屋市博物館へいこまい!! (奥三河では「いこまい」とは言わず「いくまい」または「いかまい」と言います。)



## コハズクの子ども向けパンフレット完成

(平成13年6月26日)

コハズク展の期間中に、子ども向けのコハズクの資料がないことに気がつき急ぎで作成することにしました。小学生のみなさんにもわかりやすい内容を心がけました。写真やイラストも入れてなかなか良いものができたと思います。町内の小中学生、見学にいらした方の希望者にさしあげます。



鳳来寺山  
自然科学  
博物館

## 今年も鳴いたよ「仏法僧」(コハズク)

(平成13年5月6日初鳴確認)

15年ぶりに鳳来寺山で鳴き声を聞いてから今年で3年になりました。山麓で耳をすますと今年も聞こえてきました。「仏法僧」の鳴き声が、これで3年連続です。今までは数日で声が聞けなくなりましたが、今年は5月末まで鳴いていました。梅雨に入り、6月からは聞いていません。誰か鳴き声を聞いていませんか。



## ナマズ動く = 地震 ???



ロビーのレイアウト変更で、水槽を動かした頃(4月)から、ナマズがあばれました。夜行性のはずが、昼間から激しく泳ぎまわります。皆で「最近ナマズが変ね」と言っていた6月1日、地震がありました。その後とつづけてゆれがあり、びっくり。それと繁殖期を迎えていっとしていられなかったのかなー。

## 梅雨期のまきの観察会(友の会主催)

(平成13年6月17日 89名 晴 医王寺周辺)

それまで雨が少なかったせいか発生量は、昨年より少なく、60種でした。

それでもオオホウライタケやハナオチバタケ、フチペニタケ、ヒカゲシビレタケなどの常連きの他に、カンゾウタケや秋の代表的なきのこのハタケシメジもすでに顔を出していました。

これから秋まで、まきのこが次々と出て、楽しみです。



ハナオチバタケ

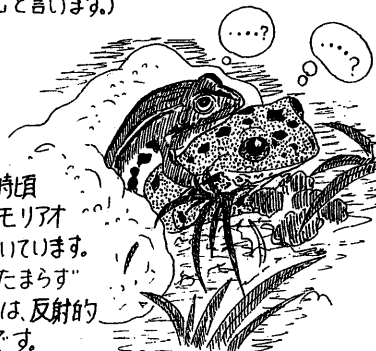


フチペニタケ

## 相手がちがうよ!

(平成13年5月24日)

館のお隣の庄田直吉さんが朝の8時頃見つけました。卵で腹をパンパンにしたモリアオガエルにトノサマガエルが重って、抱きついてます。そうこうしている間にモリアオガエルはたまらず産卵をはじめてしまいました。カエルの抱接は、反射的な行動なので、こういうことと、ときにはあるようです。



# 夏と博物館

## 「鳳来寺山の森や谷川の生きものを学ぼう」学習会 (平成13年8月11~12日 雨のち晴れ 54名参加)



今回で4度目の合宿による学習会です。

内容は次のとおりでした。

11日、午後、博物館前の音為川で水生昆虫の採集と観察。

夕方はライトトラップ(灯火採集)で、光に集まる昆虫の観察と採集。夜の博物館見学。

12日、朝、「バードウォッチング」と観察のまとめ。

ナイトウォッチングでは、ムササビの観察を予定していましたが、あいにくの雨で夜の博物館を探検しました。水槽では、夜行性のウナギとナマズが泳ぎまわっていたり、中庭のフクちゃん(保護中のフクロウ)と対面することができました。

ちょっとふきみで、こわかったですが、楽しい夜の博物館見学でした。

東海市の好意で山の家(旧門谷小学校)を宿舎に借りることができました。木造校舎のぬくもりと、なつかしさで参加者も感激。ありがとうございました。

## 「掛川地域の地層見学」学習会

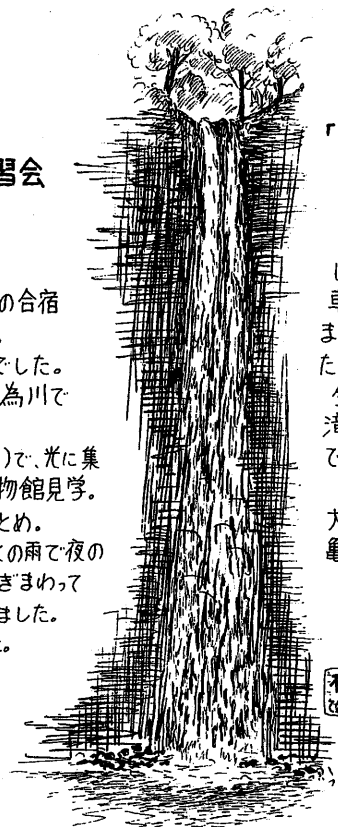
(平成13年7月15日 晴 49名参加)



静岡県の袋井市から掛川にかけての掛川層群と呼ばれる地層の見学にでかけました。この地域は約500万年~1000万年前の海底で堆積した砂や泥の地層です。

造成などでけずられたガケ(露頭)の観察地に行くと、教科書などで見るとおりの、きれいな地層が見学できました。

それらの地層から、砂や泥が積った当時の海の深さや海水の流れ、海底地すべり、地震による断層のようすについて学びました。そして化石もしっかり採集できました。



## 「鳳来町の滝めぐり」学習会 (平成13年9月9日 晴 64名参加)

花崗岩の断層にできた鮎滝から出発しました。次に長篠発電所の人工滝を車窓から見て、荒沢不動滝に移動しました。中央構造線の断層上にできた滝で、滝の上流側と下流側には全く岩石(地質)が異なります。小さな滝ですが、地学的におもしろいところでした。

さらに宇連川をさかのぼって湯谷の大滝、乙女沢の荒沢不動滝、霞ヶ滝、龜淵の滝へとめぐっていききました。

これらは流紋岩や凝灰岩にできた滝です。

何万年との時間と大地のダイナミックな動きでつくられた滝に魅せられた一日でした。



## 夏の特別展「今世紀に残したい鳳来の自然」

(7月20日~9月2日 2,824人見学)

新世紀を迎えて初の夏の特別展です。町ごと屋根のない博物館として、これからと守り残していくべき自然(動物、植物、地形、地質)について展示紹介しました。

少々地味な展示になりましたが、保護や保存は地味で光のあたらないことの方が多いためです。はなやかさはありませんが、足元を守る大切なことです。

### に残したい鳳来の自然



## 若ワシの巣立ち

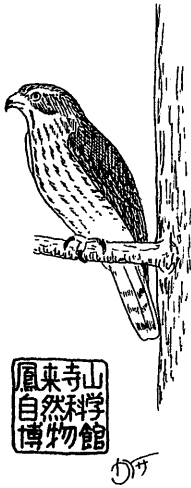
(平成13年7月26日)

5月12日、博物館のある門谷の上空で、サシバの「ヒョッ、フィー、ヒョッ、フィー」という鳴き声が響きました。例年は数日で聞けなくなるのですが、今年ばかりはいました。

その後も声や姿をよく見かけ、ある日からつがいで飛びまわるようすも何度か目撃されるようになりました。

そして、夏のこの日、何やら鳴き声がさわがしいのでフィールドスコープでのぞいてみると、館の向いの山で若鳥が巣立ちをむかえるところでした。

この秋には渡りがあります。カンパレ!



鳳来寺山  
自然科学  
博物館

## 夏休みだ! 林間学校だ!



毎年夏休みになると東海市の小学5年生が山の家に林間学校でやってきます。

そして博物館の見学や鳳来寺山登山などをとおして、この地域の自然を体験し、学んで帰っていきます。

近年は博物館の見学にあ

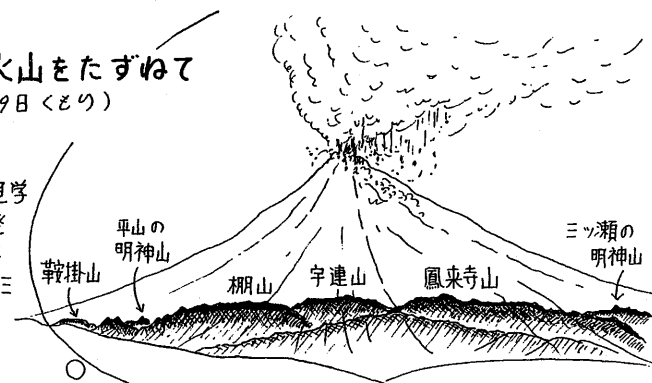
わせて、野外での自然観察や化石の採集などをとり入れる学校がふえてきました。山の学校の楽しい思い出とともに化石のおみやげが採集できた子どもたくさんいました。

## 幻の設楽大火山をたずねて

(平成13年7月29日 ひとり)

今夏、名古屋市博物館で開催された「いこまい!! 愛知のミュージアム展」の館外見学会として実施しました。名古屋を大型バスで出発した一行は、鳳来寺山自然科学博物館を見学した後、鳳来寺山に登山、次に大島ダムへ、奥三河の火山地形を観察しました。南北30km、東西20kmにおよぶ1600万年前の設楽大火山の壮大な火山活動に思いをはせました。

横山館長のガイドで三河山地の雄大な自然を満喫できたことと思います。



はなつかたあ 16.70 2001.9